

令和2年度 沿岸環境検討会での意見対応について

令和3年10月21日



国土交通省 出雲河川事務所

令和2年度 沿岸環境検討会での意見対応について

令和2年度の沿岸環境検討会において種々のご意見を頂いたところであるが、主な意見への対応について以下のとおり整理した。

委員名	意見の概要	対応
中村委員	林②地区における漂砂を懸念。浅場造成した後の調査や造成前の工夫を検討してほしい。 造成後からモニタリングすることが望ましい。	林②地区を対象として造成後からのモニタリング（基盤調査、漂砂状況調査）を実施した。
裕見委員	林②地区は西から東へ漂砂することを考慮して、西側突堤形状をL型にしたものとする。時間が経てば中央が侵食されるだろう。 東側の突堤を越えて漂砂する可能性があるため、事後調査の際は、目視でよいので突堤より東側を調査範囲として入れてほしい。	林②地区における調査は、西風による漂砂を考慮し、突堤東側についても調査対象とした。
國井委員	浅場整備事業は、水質浄化、生物の多様性、景観等の面からコンクリートでなく遠浅の湖岸にしたという背景がある。そのため、砂が流出しないよう閉鎖的な環境にするのではなく、開放型の突堤を作っているため、砂が流出するのは仕方ないだろう。 広域的な評価は現状難しいが、検討すべき課題として残しておくべきであろう。	漂砂先での環境変化を把握することについて検討する。
佐藤委員	浜佐田地区は元々鳥類が多くみられる場所であったため、事前・事後の結果が大きく変わらなかったのだろう。 鹿園寺地区では元々鳥類が少なかったが現在増加している。 鹿園寺地区と、類似の環境の未整備箇所とを比較してはどうか。	令和2年度冬季において浅場整備箇所、未整備箇所を対象とした鳥類調査を実施した。